

個体数調整の現状と最新技術

株式会社野生動物保護管理事務所

加藤 洋

個体群管理とは、カワウのねぐら・コロニーや採食地の位置、個体数の規模等を包括的に管理することで被害の軽減を図るもので、野生動物対策の基本の1つとして位置付けられる。また、個体群管理は、捕獲等により個体数を調整する「個体数調整」と、ねぐら・コロニーの位置と箇所数を調整する「分布管理」の2つの対策の考え方が含まれる。

カワウ対策における捕獲とは、大きく分けて、個体群管理のための捕獲と、被害管理のための捕獲の2つがある。個体群管理のための捕獲は、個体数調整や分布管理を目的としたものであるため、捕獲効率が高いねぐら・コロニーなど、カワウの拠点となる場所で行われることが多い。特にコロニーにおける、カワウの繁殖期の行動特性を利用した戦略的な捕獲は、個体数調整を目的とした捕獲手法として有効である。一方、被害管理のための捕獲は、被害地における加害個体を直接除去することを目的としたものであるため、被害地である河川・湖沼・海岸部等で行われることが多い。捕獲は、その目的によって、実施する手法や場所が異なる。そのため、捕獲の目的に対して誤った対策を行うと、被害軽減の効果は得られ難いどころか、かえって被害地を拡大してしまうなどの悪影響を及ぼしかねないことに注意が必要である。

個体数調整を目的とした捕獲手法としては、大きく分けて銃器捕獲と繁殖抑制という対策が挙げられる。銃器捕獲による個体数調整は、その管理目標を達成するための高い捕獲効率を求められる。このような対策に適している場所の1つとして、カワウのコロニーが挙げられる。しかし、カワウの生態や行動特性を考慮した計画性のある捕獲を行わないと、捕獲が非効率的であるばかりか、周辺地域にコロニーを分散させてしまうおそれがある。そのため、個体数調整を目的とした捕獲は、カワウの生態に詳しい専門家の助言を得ながら、科学的で効果的な捕獲計画に基づいた対策を進めるべきである。

個体群管理のための捕獲を推進する上で最も重要なのは、単純な捕獲技術ではなく、対策前後のモニタリングである。このモニタリングなくしては、いくら高い捕獲技術を有していても、刻々と変化するカワウに対応しきれず、期待した成果は得られない。モニタリングこそが管理を支える基盤であり、捕獲と1セットで計画を立てることが重要である。

各地で計画・指針に基づく個体数調整の実施事例が得られている。今後、各事例から成果・課題等を整理し、効果的・効率的な個体数調整のあり方や捕獲の進め方についての知見を整理することが求められる。